

東日本大震災 行方不明者の搜索も 広島の校友2人、岩手へ

俊彦さん(平元商・自営業)と広島市の平野龍児さん(平3経済・会社役員)。在学中は、連合県人会に所属した先輩、後輩の間柄で、卒業後はともにトライアスロンの大会に出場するなど交流が続いている。

4月8日に車で出発し宮城県石巻市に到着。その後岩手県宮古市、同市田老地区を経て10日に山田町に入った。

震災直後、人口1万9000人のうち1方4000人が行方不明という山田町。土砂除去、がれき撤去、家屋の片づけ、復興イベントの手伝いなどのほか、スキューバダイビングのインストラクターの資格を持つ大坪さんは、沿岸部の海中で行方不明者の搜索をした。現地の社会福祉協議会と綿密に打ち合わせと、準備をして、大坪さんは5月にも単独で山田町を訪ね、行方不明者の搜索に力を尽くし、合計23日間被災地に滞在した。

広島県の校友2人が4月、岩手県山田町などの東日本大震災被災地を訪ね、行方不明者の搜索をするなど陸・海での支援活動を展開した。義援金、地元で集めた食品、日用品など善意の支援物資も届けた。

2人は、三原市の大坪大坪 俊彦さん(平元商) 平野 龍児さん(平3経済)



▲ 海での搜索をする大坪さん(右)



▲ 中央が平野さん(いづれも岩手県山田町(海))

「被災地のみならずのお手伝いに行きたはりますが、こちらが励まされたことも」と振り返り、「物資以外の支援充実の必要性を強く感じました。時間の融通がきく学生のみならずもできることがあるはず」と支援への参加を強く呼び掛けている。

人間科学部心理学科と社会学科の1年次生を対象にしたセミナーがそれぞれ開催された。学生たちは学びへの第一歩を踏み出し、仲間たちと交流を深めた。



▲ 学生たちとグループ懇談する下斗米・心理学科長(中央)

伊勢原セミナーハウスで1泊合宿―心理学科

早い段階のコミュニケーションが、学生生活充実の力になる。心理学科のフレッシュマンキャンプは、4月23、24の両日に開催され、新入生77人が、専任教員、高橋知穂実行委員長(4年次)ら先輩学生の実行委員とともに伊勢原セミナーハウスに集合。先輩たちが企画した工夫をこらしたプログラムを楽しんだ。

オープニングで下斗米淳心理学科長、高橋実行委員長があいさつをしたあと、アイスブレイク、クイズ、夕食会、ビンゴ大会などを楽しんだ。

今年は東日本大震災の影響により、伊勢原セミナーハウスが一時使用できなくなり、フレッシュマンキャンプの開催が危ぶまれたが、実行委員が柔軟に対応し、企画や準備を進めた。新入生たちは友だちづくりのきっかけを得て、大学生活に慣れる絶好の機会となった。

1年次生、学習・研究に一歩踏み出す 人間科学部の心理と社会両学科が合宿・調査

吉祥寺、浅草……調査と取材体験―社会学科

社会学科の1年次生(班)に行われた。基礎セミナーごとに地域をルードワーク(調査)と聞き取り(取材)を体験する「基礎セミナー合同活、地域コミュニティなセミナー」は、13基礎セミナーをテーマとして人々にインタビューを行った。そのあと、伊勢原セミナーハウスでの研修、懇親会に参加した。

樋口博美教授の基礎セミナー(12人(1班))は、東京・吉祥寺を訪ねた。吉祥寺は市場調査会社の調査で「一番住みたい場所」の全国トップにランクされる人気スポット。商店街、風情ある飲み屋街、ライブハウス、公園……と多彩な表情を持つ。

参加した木村太郎さんは「声をかけにくかったインタビューを通して吉祥寺の秘密を探った。」

「被災地のみならずのお手伝いに行きたはりますが、こちらが励まされたことも」と振り返り、「物資以外の支援充実の必要性を強く感じました。時間の融通がきく学生のみならずもできることがあるはず」と支援への参加を強く呼び掛けている。



▲ 先輩と共にインタビューする1年次生(吉祥寺で)



▲ 伊勢原セミナーハウスでグループごとに研修

2班の大矢根淳基礎セミナー10人の訪問地は、東京・浅草周辺。墨田川にかかる業平橋や吾妻橋をはじめ、浅草寺、東京スカイツリー、関東大震災(1923年)の惨状を伝える震災復興記念館などを精力的に調査した。

調査の結果は、生田キャンパスの4号館3階の掲示板に張り出されている。

ゴミ集めで地域に貢献 SKV

SKVメンバーとボランティアや地域貢献に興味のある学生20人は「第1回清掃企画 千代田区をきれいにしよう!」を実施、清掃とゴミ集めに励み、地域に貢献した。

神田キャンパスから神保町駅、九段下駅、水道橋駅の各方面へ3グループに分かれ、片道約1キロを1時間30分にわたって清掃、ゴミ8キロを拾い集めた。1面に関連記事。



橋駅の各方面へ3グループに分かれ、片道約1キロを1時間30分にわたって清掃、ゴミ8キロを拾い集めた。1面に関連記事。

留学生の方たちとお話をする機会があり、日本では無かったことを経験した。留学生とは、同じ大日本で学ぶ明確な目的と将来への希望を話さねば、生活費を賅うためのアルバイトで多くの時間を要し、日本人学生と期待していたほど交流の機会が少なかった。

私は、歳をとってから留学したので、単身でカレッジ(学生寮)で生活し、学生や教員たちと食事の時に、話したり、コモンルームで一緒にテレビを見たり、買い物や夕方方に散歩に誘われ

隣に座った人と話をしませんか

食べている、しかし皮膚が日焼けに極端に弱く、多くのことを学びたい。南アフリカの白人女性は、自分は血液型がA型Rhマイナスではないか。さらにはA型Rhプラスの女性に、妊娠で心配していることなど、国籍、国民性など日本にいた時に気づけなかった話にも聞けない。

(学生部)



機会があれば、国内や外国へ旅行に行くのも良いかと思う。自然、文化、歴史、建物

ミネラルウォーターが仲間入り

本学は、大学ロゴマークやシンボルマーク、マスコットをパッケージにデザインしたミネラルウォーター(500ミリリットル)は、公認グッズ初の飲料水で、夏から秋に向け、大学行事などで活用される予定。

販売場所は、生田キャンパス購買会、生田・神田キャンパス内の自動販売機で、6月中旬に発売の予定。



販賣場所は、生田キャンパス購買会、生田・神田キャンパス内の自動販売機で、6月中旬に発売の予定。

洋画家・三浦勝康氏から絵画寄贈

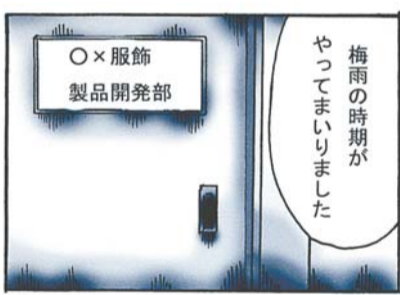


左から日高理事長・学長、三浦氏、西村氏

校友会秋田県支部事務局長の西村清一氏(昭53)の紹介により、洋画家の三浦勝康氏(昭和49年法学部入学)からアクリル画「緑山無風(りよくざんむふう)」が本学に寄贈され、5月24日、神田キャンパスで日高義博理事長・学長から感謝状が贈呈された。

三浦勝康氏の主な受賞歴
日本現代作家フランス展2000(2000年10月) ラスチャック美術館長特別賞受賞など。

漫画研究同好会



梅雨の時期がやってきました

○×服飾 製品開発部

この時期、汗と湿度で服はベタつき、不快感を出してしまうのですが……

そこで私は、逆転の発想で最初から服が張り付いていれば気にならぬと考えました……

……君は馬鹿かね?